

平成30年度 自己評価表及び学校関係者評価、次年度改善策

教育方針： 教育基本法及び学校教育法の精神に則り、高等学校通信制の課程(普通科・単位制)の特色を生かした教育を進め、豊かな人間性と自律・自立の力を養い、人のため、社会のために貢献する人間を育成する。

- 重点努力目標： ① 生きる力の育成(感謝の心を育む教育の推進・自己教育力の育成と人間力の向上・基本的な生活習慣の指導の徹底・人権・健康・安全に留意した学校生活)
 ② 確かな学力の育成(わかる授業の実践と基礎学力の向上・定着、各コースの特色をいかした学習プログラムの確立・生徒の学力に応じた指導法の工夫・自ら学び、考える力の育成)
 ③ キャリア教育の推進(正しい職業観・勤労観の育成、模試の活用と面接指導の充実、長期目標設定シートの有効活用、保護者と連携した進路指導、専門学校との連携)

領域	項目	具体的取組目標	評価	目標達成状況	学校関係者評価・提言	次年度改善策
学習指導	授業を充実させるための教育環境づくりの徹底	授業時間前の行動の指導の徹底	B	不登校経験をした生徒が多いこともあり、日々の出欠確認をし、個に対応できる情報の共有を図っている。	・不登校を経験した入学者が多くなる現状の中で、3年間で成長して卒業をしていることを聞いているのでそのまま継続して指導を進めてほしい。	授業に集中できるようにしっかりと授業の準備をさせて授業に臨めるように指導を継続したい。
		授業開始・終了のあいさつ及び服装チェックの励行	B	時間の厳守に努め、教師が率先垂範して動けるようにしているが、開始時間への移動が現状では課題である。	・大学では、授業中のスマホの使用は禁止しているが、少人数のゼミなどでは、調べ物をするときには使用させている。	環境が生徒を育てるという視点に立って、言語環境や服装の指導を進め、可能な限り教師が生徒の様子を見守る指導を進めたい。
		怠惰な生徒への指導の徹底	A	授業に対する生徒のアンケート結果をみると教師の指導に関しては肯定的に受け入れている生徒が多くおり、その指導を継続することで、学力の向上を図りたい。	・現在の大学生には、基礎学力不足の生徒がおり、提出物がルーズであったり遅れても連絡をしない生徒もいるので、コミュニケーションの取り方を含めて高校でしっかり指導してほしい。	新入生・転校生については、事前に前籍校との情報交換の訪問をするなどして、できるだけ生徒の実態に応じた指導を進められるようにしたい。
	自ら学び、自ら考える意欲と態度を育てる学習指導の実践	一人一人を見つめ、伸ばす授業展開の工夫・実践	B	ICT教材を活用する授業に7割の生徒が効果を感じており継続することで、さらに学習に取り組む意欲を高める指導につなげていきたい。	・自己紹介や自分の長所を発表させるなどして人前で話す機会をもつことで、自分に自信をもたす指導も必要である。	ICT教材を効果的に進め、英単語・漢字などの毎日の積み重ねの指導を継続的に。自分に自信をもとすことで成長をさせていきたい。
		学習意欲を高める評価の工夫	B	生徒は失敗を恐れる傾向にあるが、レポートの作成等に積極的に関わる中で達成感を育て、さらに学習に取り組もうとするように指導を続けたい。	・授業評価については、授業後に質問事項や分かりにくかった内容を書かすことも有効である。	毎時間の振り返りの時間を大切に、質問等を出さすことで個に対応していきたい。
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	基本的な生活習慣の確立、あいさつの励行、2分前行動等の徹底による規律と節度のある生活態度の育成	B	朝、登校できにくい生徒が多く、なかなか改善できない状況である。生徒の9割近くが学校生活が楽しいと感じており、生徒に寄り添う指導を継続していきたい。	・今年度から高体連に所属した部活動を活用した生徒の健全育成活動の推進や学校の知名度向上の一つの売りとするのもいいのではないかと。	生活のリズムを整える指導、社会人として遅刻することがいかに自分にかかっているかを機会をもらえて指導し、より充実した学校生活が送れるように支援命を大切にすることを指導を重点的に行う。特に、ヘルメットの着用などの交通安全指導を充実させる。未来アンパサダーの活躍を認め、自主活動を進める。
		共通理解のもと生活全般に対する指導の徹底と交通安全指導の徹底	B	未来アンパサダーの活動が定着してきており、自分たちでもよい学校にしていこうとする動きがでてきている。その反面、交通事故が起こるなど指導の継続が必要である。	・未来アンパサダーの生徒が学年によるバツキがある。学校生活向上委員会としての位置付けであるようだが、より多くの生徒が活動できるように働きかけられることも必要であるのではないかと。	前任校訪問などを通して、個々の生徒の情報の収集に努め、必要な情報を全教職員で共有するための毎月の会を行う。
	問題行動の未然防止	生徒一人一人を見つめた個別指導と教育相談活動の充実	A	生徒課を中心とした情報の共有を図る中で一人一人の状況を全教職員が理解した動きができてきている。	・心理療法士の確保などを検討し、一人一人の状況に応じた対応ができるような検討もいるのではないかと。	良い内容の情報を保護者に積極的に伝え、本人を認めてもらえる機会をつくる。生徒の状況に応じた関係機関との連携を深める定期的な訪問等を進める。
		家庭及び地域関連諸機関との連携を密にした指導の推進	C	気になる生徒については、保護者との連携を密にしている。校内での盗難や校外での喫煙などまだ指導が必要な状況である。		
進路指導	進路指導の充実	生徒の能力・適性・希望を生かして進路実現に向かう生徒の育成	B	今年度の進路指導への取組への評価はされているが、その実現に関して80%以上の生徒が不安を感じており、引き続き情報提供を図りながら、指導を続けた。	中学校時代に不登校であった生徒でも高校3年間で進学をすることができるようになってきている。この現状を継続して指導を進めて欲しい。	生徒の適性等を正しく把握した進路指導を進める。目標を設定し、それを達成できるような関わりやICT教材の工夫を進める。
		基礎学力の向上と資格取得の促進と望ましい職業観の育成	B	コースに応じた指導を進めるためにICT活用授業を取り入れ、個々に応じた進路で学習する機会を持つようになっている。	・生徒になぜ高校に来ているのか、高校の次に何を目標にしているのかを考えさせる機会をもたすことで、高校生活が充実したのものになると思うので、ぜひ実践してほしい。	英単語や漢字などの毎日の積み重ねを大切に日々の指導を実践する。各学年ごとの指導を明確にした指導計画を作成する。
		進路に関する適正な情報・データの提供ときめ細やかな相談の実施	B	進路に関する講演会の開催など、生徒に将来を考えさせる機会を与えることができたが、大学入試に関する指導は今後どのように徹底するかが課題である。	・通信制の学校であっても、しっかり学習したいという自信をもたすことで、胸を張って卒業する生徒を育ててほしい。	今年度も継続して、将来の生き方に関する適切な講話を設定するなど、一人一人が将来の夢をもつ指導に努める。
		社会人として信頼される人材の育成	A	高専連携授業の導入として進路に対する専門的な指導の機会を設けることで将来の進路について考える生徒が増えてきており、進路への考え方が具体的にできてきている。		今年度も専門学校との連携を継続して行うことで高校卒業後の進路について考える一つの機会とする。
特別活動	学校行事の充実	運動会、スキー等の行事を充実させる。	A	自分に自信をもちにくい生徒が多いが、未来アンパサダーを中心に生徒が中心になった活動が浸透しており、意欲的な活動となっている。	スキー教室の安全確保や初心者への指導の観点からも外部指導者を確保することも必要であるのではないかと。	より多くの行事に積極的に参加されるとともに運営に生徒を積極的に関わらせ自己有用感を育てる学校行事になることを目標として実施する。
		「感謝の心」を育む	B	教職員の共通理解のもとに長期目標設定シートの作成を行っているが、まだ十分に活用ができていない生徒もいる。		感謝の心で何事も取り組ませる指導を進め、常に周りの人からの助けがあることを認識させ、その心を受けた行動が取れる生徒を育てる。